

■生徒の学力の状況

- 授業に意欲的で、よく発言する生徒が多い。
- チャイム着席及び授業規律は、概ねできている。
- 基礎・基本の学力が、概ね身に付いている生徒が多い。
- 極端に学力不振の生徒もいる。
- 提出物や宿題が、期限に間に合わない生徒が若干いる。
- 個々の意見を発表する力が乏しい。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

- 「本時のねらい」を板書などで目に見える形で、毎時間明確にする。
- 学力向上に結びつく課題(提出物・宿題)を与え、必ず期限内に提出させる。
- ICT機器を活用しながら生徒の関心や理解を高める授業を行う。
- 少人数授業の効果的な進め方を工夫する。
- 言語活動を充実させるために、各教科の授業において小集団の学びの時間を意図的に設け、表現力を身に付けさせる。

■学校経営方針より(学力向上に関わる内容から)

- 問題解決型・探究型の授業を重視すると共に、主体的に取り組ませるための協働学習や少人数授業などを充実させる。
- 「板橋区授業スタンダード」を基盤とした授業革新に取り組み、「主体的・対話的で深い学び」につながる質の高い授業を行う。
- 予想される超スマート社会(Society5.0)を生き抜くために「読み解く力」を育成し、学力の定着・向上を図る。
- ICT機器を活用し、より興味・関心を引きつける授業、より分かる授業を展開するとともに、一人一台端末を活用し、生徒の学習意欲を高める。
- 学習意欲を高め、学習習慣を確立するために、人間的な触れ合いと規律ある授業を推進する。
- 学力向上専門員の活用により、授業や補充教室及び学力向上推進週間等における学習指導を充実させる。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1	視点2	視点3
問題解決型・探究型の授業	協働学習の導入	指導と評価と支援の一体化
①本時の「ねらい」(学習課題)を板書する。 ②「ながれ」(解き方・方法)を書く。 ③自分の考えを式・図・言葉等を使って書く。 ④学習で分かったことをまとめる。 ⑤学習の振り返りと感想を書く。	○小集団を作り、体験的授業を取り入れる。 また、生徒が意見をかわし、集団としての意見や考えをまとめたり、集団としての作品を完成させる活動を取り入れる。 ○自分の考えや意見を発表させる機会を増やし、人前で上手に述べる力を高める。	○指導と評価において、個に応じた課題を明確にする。 ○評価においては、学力向上につながる学習のポイントを明確に示す。 ○支援を必要とする生徒には、教員と学力向上専門員が授業および補充学習で支援する。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた取組

授業におけるマナー・ルールの徹底	学習環境の充実	教員の指導力向上
○3分前の予鈴で着席、授業の準備を行い、本鈴で授業を開始する。 ○授業の開始と終わりは、全員そろって、「語先後礼」を意識してあいさつをする。 ○お互いの「学ぶ権利」を守る。 ○学習のねらいの明示と振り返り、まとめを毎時間行い、「板橋区授業スタンダード」を基盤とした授業革新に取り組む。	○全学級でICT機器を効果的に活用し、重要な部分を拡大して提示したり生徒の考えの共有化を図る。 ○教室環境のユニバーサルデザインに努める。 ○「ねらい(めあて)」「流れ」「まとめ・振り返り」のカードを黒板に掲示し、授業の流れを小中で連携して統一する。それにより、9年間の小中一貫教育を推進し、落ち着いた環境の中で学習に取り組めるようにする。	○教職員の課題に応じ、研究推進委員会を中心に校内OJTを推進し教員の指導力の向上を図る。 ○板橋区教科等指導専門官の公開授業に参加し、指導力向上に努める。 ○少人数授業の効果を検証し、どのような授業が学力向上につながるかを考えることで、教員の指導力の向上を図る。